

2017年2月16日

高等教育キーパーソン各位

地域科学 KKJ セミナーニュース 445

セクシュアル・マイノリティ学生をめぐる困難と支援策 2
～問題なのはLGBTではない／大学に求められる対応とは～
ご参画・ご派遣のお願い

人間の多様性とは何でしょうか。性的側面からみると、一人ひとりの個人の心と身は、“女的なるもの”と“男的なるもの”の両極から発し、相互乗り入れしているカラーグラデーションの何処かにあるといえましょう。そんな個と個の出会いと関係性、そのコミュニケーションは、いかに微妙かつ至難なことでしょう……。

誰もが学びやすい、過ごしやすいキャンパスとは、どのようなコミュニティでしょうか。教職員・学生・理事それぞれが様々に思い描いていること、その全てが“答え”であり、その実現に向けて努力していくことが真の“多様性の確保”ではないでしょうか。そこを出発点として、ユニバーシティがダイバーシティ推進の旗手として取り組んでいきたいものと思います。

2013年8月に前回セミナーを開催してから、およそ3年半、セクシュアル・マイノリティに関して、社会や企業の中で大きな動きがありました。自治体の中には、同性パートナーシップ制度が設けられた、あるいは4月以降に設けられるところもあります。

本年1月からは、「事業主が職場における性的な言動に起因する問題に関して雇用管理上講ずべき措置指針」に「被害を受けた者の性的指向又は性自認にかかわらず、当該者に対する職場におけるセクシュアルハラスメントも、本指針の対象となる」と明示されました。

これを機会に、各大学では、「ハラスメントガイドライン」の中にセクシュアル・マイノリティの規程を明文化する検討が始まっております。自大学の風土・文化を再考するとともに、どのような仕組みや対応策を設けていけば良いのか、試行錯誤の中、ご精励のことと拝します。

本セミナーでは、学生や社会を取り巻くセクシュアル・マイノリティについての状況、先進的な取り組みを行っている大学からのご報告を通して、全ての学生を含む大学構成員への対応についての施策展開を考えていきます。

ご多用の折とは存じますが、貴学のキーパーソン各位に、ぜひともこの機会にご参画・ご派遣を賜りますよう、お願い申し上げます。